

## 主が満たしてください マタイ14:13~21 / 李正雨師

私たちが持っている聖書での福音書は、全部で4つです。マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネによる福音です。皆様、もしもこのような考えをされたことがありますか。なぜ福音書は4つもあるかという考え、したことはあるでしょうか。イエス様の記録については、一般的にイエス様が活動された時に書かれたものではなく、後に書かれたものだと見なされています。なぜなら、イエス様がお働きになった時は、あえてイエス様の言葉を記録する必要がなかったからです。しかし、イエス様は復活の後、昇天されました。弟子たちとこの世から離れられたのです。そして時間が経つにつれ、イエス様の言葉が書かれる必要性が浮上しました。イエス様と共に働いた弟子たちも神様に召され、パウロによって様々な地域に福音が伝わり始めたからです。それで、イエス様の弟子又は弟子の共同体は、自分が知っているイエス様について記録しました。これが私たちが知っているマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネによる福音書です。ですから、イエス様についての記録は、共通のものもあり、違うものもあるでしょう。みんなそれぞれが覚えているイエス様は違うからです。このことが4つの福音書の共通点と相違点だと思います。お互いが覚えているイエス様は、同じところも、違うところもあるのです。自分だけが知っているイエス様、みんなが共に知っているイエス様がいるということでしょう。

では、これからは、この4つの福音書の共通点だけについて考えてみましょう。なぜ福音書の著者は、共通の物語を繰り返して書いたのでしょうか。他の福音書に触れていない話とか違いを記録するのは当然なことでしょう。しかし、共通の話が繰り返されるのは、明らかな目的と理由があるのでしょうか。同じ話が繰り返される理由。それは、その言葉が繰り返されて書かれるほど、重要な言葉であるからです。4つの福音書みんなに書いてある言葉は、イエス様の受難と死と復活についての言葉です。これを除いては、キリスト教が成り立たないので、すべての福音書には、このことが重なって書いてあるのだと思います。そしてこのほか、4つの福音書に全部書かれた言葉は、2つの話しかありません。一つは、イエス様の洗礼の言葉であり、もう一つは、今日の福音書です。

今日の福音書は、すべての福音書に記録されるほど、重要な言葉です。しかし、この言葉を読んでみると、イエス様が起こされた多くの奇跡の一つだけに見えます。ただパン5つと魚2匹で5000人を食べさせた奇跡です。ところで、なぜこの言葉がすべての福音書に記録されたのでしょうか。すべての福音書の著者は、なぜこの言葉を抜かさずに記録したのでしょうか。これを理解するためには、まず今日の福音書の社会的な状況について調べる必要があると思います。今日の福音書13節の言葉です。「イエスはこれを聞くと、舟に乗ってそこを去り、ひとり人里離れた所に退かれた。しかし、群衆はそのことを聞き、方々の町から歩いて後を追った。」

今日の福音書は「イエスはこれを聞くと」という言葉から始まります。では、イエス様は何を聞いたのでしょうか。イエス様が聞いたのは、洗礼者ヨハネが亡くなったというニュースでした。領主ヘロデは、洗礼者のヨハネを殺しました。そしてこれは、当時の社会的な状況で大きな問題を引き起こすことができました。今の私たちの目から見ると、この事件は権力者一人が荒野の宗教人一人を殺した事件のように見えます。もちろんこれも問題を起こすことができました。しかし、より大きな問題は、洗礼者ヨハネが祭司の独り子だったということです。さらに、人々は洗礼者ヨハネのことを預言者だ(5節)とっていました。洗礼者ヨハネの死は、十分にユダヤ人の反感を買うことができました。そして洗礼者ヨハネは、イエス様の道を整えた人でした。イエス様はご自分の道を整えた人が殺されたというニュースを聞いたのです。社会的にも個人的にも良くない知らせがイエス様のところに届いたのです。

この知らせを聞いたイエス様は、船に乗ってそこを去ります。人里離れた所に行かれたのです。しかし、これを聞いた群衆は、このようなイエス様の後を追います。イエス様の後を追っている人々だとしても、当時の社会的な状況を知らなかったわけではないでしょう。洗礼者ヨハネの後継ぎと呼ばれたイエス様の事情を果たして知らなかったのでしょうか。おそらく知っていたと思います。それにもかかわらず、群衆はイエス様の後を追っていったのです。自分の個人的な状況が何よりも厳しかったからだだと思います。イエス様はこのような人々を見られ、憐れまれました。周りの状況でさえ探ることができない彼らを憐れんでくださったのです。そ

してイエス様は、群衆の中で病人を癒してくださいました。おそらく最も助けが必要な人に手を差し出されたのではないかと思います。

時間は経ち、夕暮れになりました。弟子たちはイエス様のところに来てこう言います。15節の言葉です。「ここは人里離れた所で、もう時間もたちました。群衆を解散させてください。そうすれば、自分で村へ食べ物を買に行くでしょう。」弟子たちの要求は当然のことでした。数え切れないほど多くの人が集まり、時に合わせて彼らを解散させることも必要なことでした。しかし、イエス様は弟子たちの要求を受け入れませんでした。そして、弟子たちが群衆に食べ物を与えるようにと言われました。それで弟子たちはこう答えます。「ここにはパン五つと魚二匹しかありません(17節)。」

パン5つと魚2匹。イエス様と弟子たちの一食でも足りない量です。しかし、イエス様は集まった数千人のために食べものを与えなさいと言われます。イエス様は、弟子たちが持っている食糧がどれくらい分からなかったのでしょうか。分からなかったとしても、また弟子たちが多くの食糧を持っているとしても、何千人前の食べ物を持参することができないというのは、誰でも知っている事実です。しかし、イエス様は弟子たちが持っているものを数千人のために出すことを願われました。とんでもないことでしたが、イエス様はご自分の弟子たちがそのことを行うようにと願われたのです。社会的な状況やイエス様の事情を伺うことさえ出来ない人のために、一食でも足りない食べ物を差し出すこと。これはイエス様の弟子たちがしなければならないことでした。

韓国のことわざの中に「貧民救済は王様もできない」という言葉があります。いくら豊かな王であっても、貧しい人みんなを救済することはできないという意味です。今の私たちの状況も同じでしょう。教会は頑張って救済をしていますが、していないとしても、結果は大きく変わらないでしょう。誰にでも人々を貧困から完全に救うことはできないでしょう。5000人の前でパン5つ、魚2匹がどのような支援になれるでしょうか。しかし、イエス様はご自分の弟子なら、このような状況で自分の小さなものでも、まず差し出すことを願われます。役に立つかどうかを計ったり、次のことを心配して人々を解散させたりするのではなく、まず自分の手に持っているものを差し出すこと。まず人のことを考え、助けること。これが弟子たちがしなければならないことだからです。

パン5つと魚2匹しかないという考えを先にしたら、私たちは何も行うことができないでしょう。しかし、その小さなものを私たちが自分だけで持たず、隣人のためにささげるなら、そしてそのものがイエス様の手にあるなら、みんなを十分に満たす奇跡が起こるでしょう。今日の福音書が私たちに教えているのは、まさにこれです。自分の手に握っていたら、小さなものそのままに終わりますが、いくら小さなものであっても、ささげてイエス様の手にあるなら、みんなを満たすものになるのです。今日の福音書で、イエス様はパン5つと魚2匹で数千人の人々を食べさせます。それも腹いっぱい食べさせます。そして残ったパンの屑を集めると、12かごでいっぱいになったと今日の福音書は、語っています。イスラエルで12という数字は、完全であるという意味を持っています。それでイスラエルの部族は12部族であり、イエス様の弟子たちも12人であったのです。すべてのことが完全になったのです。洗礼者ヨハネの出来事によって社会は不安になり、群衆は自分の病気などの不安によってイエス様の後を追ったのですが、イエス様によってすべてのことが完全になったのです。そして、そのことの始めには、弟子たちが差し出したパン5つと魚2匹があったということ、これを私たちは忘れてはいけません。

福音書で起こったほとんどのことは、イエス様ご自分が起こしたことです。しかし、今日の福音書では、イエス様の奇跡だけでなく、自分のものをささげた弟子たちのことも書いてあります。おそらく4つの福音書すべてがこの事件を記録しているのは、このことが弟子たちの犠牲とイエス様の奇跡が起こしたからではないかと思えます。そして、イエス様の受難と死と復活、弟子たちの犠牲は、私たちキリスト教が何を目指しているのかを教えていると思えます。手に握っているままであれば、何もできません。少ないものでも、隣人のためにまず差し出さなければなりません。そうすれば、神様はその小さなものを祝福してくださるでしょう。そしてそれを通してすべての人々の必要を満たし、完全にしてくださるのです。これを悟り、主に従っている皆様を神様が完全にしてくださいますように。私たちが差し出している小さなものを通して、すべての人が満たされますように、主の御名によって祈ります。アーメン